

# KOIAS（神戸霧囲気学研究所）の2024年度の活動報告



▲郡山市立美術館での霧囲気学ギャラリートークの様子



▲台湾での霧囲気学・国際ワークショップの集合写真

## 【活動概要】

KOIAS は世界初の霧囲気学の研究拠点として東京大学、東北大学などの国内機関のほか、ローマ第2大学、ドイツ・新現象学会、カナダ・センス学研究所、スロベニア ZRS、台湾・中央研究院と共同研究を行っている。また霧囲気学の研究拠点形成のため、ローマ第2大学、コンコルディア大学（カナダ）、ZRS（スロベニア）、哲学実践研究所及び新現象学会（ドイツ）、中央研究院（台湾）、フルミネンセ連邦大学（ブラジル）と協定を締結し、複数の国際学会を開催してきた。

さらに企業（島津製作所）との共同事業のほか、美術館、芸術家との協働により新たな文化的創造にも貢献した。学内では、倫理創生プロジェクト、日本語日本文化教育プログラム、地域連携センター、海港都市（文化交渉学）とともにそれぞれ人文学研究科において大学院生に対する特別の演習を行っている。

## 【活動内容】

KOIAS は海外協定を複数締結して国際共同研究に踏み出し、2024年度は8月6日に世界霧囲気学会設立準備大会（ローマ第2大学、協定機関代表など約10名参加）、9月29日から10月1日に国際シンポジウム（台湾中央研究院、約40名参加）を開催した。2025年3月24-25日に開催されたブラジル霧囲気学コロキウム発足記念大会にもKOIASから3名が参加した（ニテロイ・フルミネンセ連邦大学、約50名参加）。さらにM.ゴレーヌ准教授（ニーム大学）、姜林静副教授（復旦大学）、D.ボルヒマイヤー名誉教授（ハイデルベルク大学）、J.アルペリン氏（シカゴ大学）、M・サラザール氏（サセックス大学）を神戸大学に招聘して研究会を開催した。以上の国際シンポジウム等を通じて若手研究者の育成にも取り組み、若手研究者を国際公募により特命助教として採用した。

構成メンバーの研究成果はそれぞれ学術論文や研究発表として結実した。なかでも国際学術誌『Poligrafii』『Contemporary Aesthetics』『The Philosophical Quarterly』などにメンバーの霧囲気学関連論文が掲載された。2025年度からのJSPS研究拠点形成事業にも採択された。

また、例年通り島津製作所との共同事業を実施して出張講義などを開催し、新たな技術開発に人文的側面から寄与した。また、美術館などと共同して研究を推進することで、芸術文化の振興に貢献しており、2024年度は六本木 AXIS Gallery の特別企画（島津製作所との共同企画10月、11月）に合わせてトークイベントを実施した。郡山市立美術館の特別展「続・霧囲気を展示する」（1月25日-4月20日）にも企画協力し、特別ギャラリートークを2025年2月24日に実施した。

こうしたKOIASの活動は社会的にも注目され、毎日新聞（2024年7月24日夕刊7面）、神戸新聞（2024年9月14日夕刊1面）でも取り上げられている。